

## No.2 「北浦梨」産地の活性化に向けた、ICT活用による栽培の「見える化」

- 活動期間 令和6年度～令和8年度
- 対象者名 JA新みやぎ北浦梨部会若手生産者1人、役員等3人（部会員35人）、株式会社ファームおてんとさん栽培担当者2人
- 課題の背景
  - ・美里町の特産物「北浦梨」の栽培面積は約10ha、生産者は約40人(令和5年4月現在)。
  - ・家族・親族間での経営継承が多い中、令和3年に(株)ファームおてんとさんが継承・新規参入し、産地の維持・発展に向けた新たな形が生まれた。
  - ・気候変動に伴う気象災害や、病害虫発生・防除時期の延伸への対応に加え、若手生産者や後継者への栽培技術継承・定着及び生産者間の栽培管理の比較や経営改善等には、電子データでの記録・整理・蓄積による「見える化」が必要であることから、ICTを活用した管理手法の確立を図る。

### 令和6年度

目 標	活動事項	普及活動のポイント
<p>◆園内の気象経過や病害虫発生状況等を把握し、栽培管理とあわせて電子データで「見える化」して記録・情報発信できるようになる。</p>  <p>(左)環境測定機器 (右)データロガー</p>	<p>◆栽培環境の「見える化」支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気象データ収集展示ほ設置</li> </ul> <p>◆病害虫発生の「見える化」支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンクイムシ類の発生活長調査</li> <li>・情報交換ネットワークづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 若手生産者園地及び(株)ファームおてんとさん園地に気象データ収集展示ほを設置するとともに、JA部会員に対し、環境測定機器のモニタリングデータの確認方法の周知を行った。</li> <li>■ 凍霜害警戒時期における、鹿島台アメダス観測地点と両園地の測定気温データを比較すると、両園地とも日中の気温が高く、夜間の気温が低い傾向にあった。また、両園地を比較すると、(株)ファームおてんとさん園地の方が日中の気温が高く、夜間の気温は同程度～やや低い傾向であることが確認された。</li> <li>■ 若手生産者園地にフェロモントラップを設置し、今年の美里地区における発生活長の把握を行うとともに、若手生産者に対して調査結果等を情報共有し、薬剤の選択や散布計画の参考としての活用を図った。</li> <li>■ メッセージアプリケーションを活用した情報受発信体制の整備を行った。</li> <li>■ 現在は、過去に普及センターで作成した紙資料のPDFデータの掲載・情報提供を行っており、令和7年作に向けては各園地の発芽・展葉状況の投稿・共有等を予定している。</li> </ul>
<p>◆若手生産者等の経営管理に関する基礎知識が習得される。</p>	<p>◆経営の「見える化」支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営管理状況及び令和5年産生産経費等の聞き取り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 若手生産者に対し、令和5年・6年産生産経費等を聞き取り、比較による「見える化」を行った。また、若手生産者との比較及び「北浦梨」生産経費の概要把握のため、JA部会役員等のベテラン生産者に対し、現在の経営概要と今後の展望について聞き取りを行った。</li> <li>■ 若手生産者は、現在日本なし・水稻の栽培管理全般、母が経理・販売部門の担当とことから、基礎知識の習得に向けた支援を行っていく。</li> </ul>

### 意図する対象の変化（最終年度）

- ・栽培環境や栽培管理を電子データで「見える化」して記録し、若手生産者を含むJA部会内等で情報共有や活用が行われるようになる。
- ・若手生産者等が「北浦梨」生産にかかる収支状況を把握し、経営管理が行われるようになる。

数値目標：ICTデータ活用項目数

令和6年度 0項目（実績1） →令和7年度 3項目 →令和8年度 4項目